

# COVID-19 感染拡大下における交換留学生の対日観の質的検討： オンライン授業の課題

石鍋 浩\*・安 龍洙\*\*  
(2022 年 11 月 8 日 受理)

## A Qualitative Study of the Exchange Students' View Toward Japan Under the Pandemic of COVID-19: Remaining Issues to Online Lessons

Hiroshi ISHINABE\* and Young Su AN\*\*  
(Received November 8, 2022)

### Abstract

Studies about the view toward Japan in exchange students have been suggested that the international students have estimated their ideas about Japan through their real daily experience, studying and living life in Japan, in spite of their own countries. However, due to the pandemic of COVID-19, the exchange students had not been able to enter Japan. In place of “face-to-face” real lessons in the classroom, online lessons have been offered to the exchange students, who could not leave their countries. Although online lessons have become wide spread, how “virtual” online lessons affect the ideas about Japan in the exchange students is unknown. In the present study, we qualitatively explored exchange students' view toward Japan, who had to stay own their countries. As results, information through medias like SNS or classroom have affected the exchange students' view toward Japan. Our data qualitative suggested that we should change our mind to online lessons, which have not been use to make only a traditional lecture, but use to make online buzz-group sessions or metaverse with Japanese students in Japan in order to simulate real daily life.

【キーワード】：オンライン授業、交換留学生、対日観、COVID-19

### 1. 背景

COVID-19 感染拡大は、2020 年 3 月に WHO (World Health Organization) によってパンデミッ

---

\*東大阪大学短期大学部介護福祉学科 (Department of Social Care, Higashiosaka Junior College)

\*\*茨城大学全学教育機構 (Institute for Liberal Arts Education, Ibaraki University)

クが宣言され (Ciotti, et al., 2020)、3 年目となる 2022 年現在も様々な場面において従来とは異なる対応が求められている。日本以外の地域の教育現場においても、変革が求められたことが示されており (Daniel, 2020)、今後も現場レベルでの試行錯誤は続くものと予想される。

教育現場における問題点もすでに指摘されつつある。COVID-19 パンデミック以後の教育現場における大きな変革は、「オンラインツールを活用した遠隔授業のような教育の現場におけるあらたな取り組み (張ら 2020)」がその代表として挙げられる。オンライン授業に関しては、対面授業から遠隔授業への切り替えに伴う問題点の指摘 (深川 2020)、留学生や社会人学生などから時間的制約の少ないオンライン授業への好意的な評価 (進藤ら 2021)、留学生の孤立防止等を目的とした、ボランティア学生によるオンラインソーシャルサポート活動 (村田 2021) などが報告されている。COVID-19 の感染状況が今後拡大するにせよ収束するにせよ、オンライン授業は教育現場における有用な手段として位置づけられていくものと考えられる。

COVID-19 パンデミックのため、日本に留学が内定していた学生の渡航中止などの影響も報告されている (岩城・巽 2021)。そのような中、茨城大学においても交換留学予定の学生の多くが、来日を延期し出身地に待機せざるを得ない状況が続き出身地におけるオンライン授業を受講することとなった。オンライン授業の海外配信は実際の授業を海外の学生が体験できる (張ら 2020) など、従来にないメリットも示されている。しかしその一方、留学先である日本での直接の体験が関与する項目については、オンライン授業では限界があることも予想される。特に、対日観の形成は、留学先である日本の教室における対面授業の受講や生活を通じた実体験などの有無が大きな影響要因となると考えられる。

留学生は、実際に日本で生活を送りながら学習を進め、その経験を通し対日観を形成していくことが先行研究において示されている (安 2008a、安 2009、藤原 2009、安 2010a、安 2010b、安 2011、安 2012、松田 2013、安・宋 2013、安 2014、安 2015a、安 2015b)。日本語学習経験者や滞日経験者の方が無経験者に比べ、日本、日本人、日本語に対して好意的なイメージを抱いていることも示されており (大江 2011)、日本滞在経験が留学生の対日イメージ形成の主な要因であることが示唆されている。留学終了直前の東欧出身短期留学生を対象とした対日観の検討では、店員の丁寧なサービス、外国人が困っている時に優しく助けてくれる、皆が丁寧でおもてなしの態度を持っているなど、好意的に捉えている面と、物価の高さ、外国人に無関心な一面など否定的に捉えている面が認められ、ここでも日本での経験が対日観形成の一要因であることが示唆されている (安 2018)。同様に、韓国、中国、台湾、ベトナム、東欧諸国など出身は異なっても、物価の高い日本、仕事に厳しい日本人像、消極的な日本人、親切的な日本人像など、対日観には共通点があることが示されている (安 2008a、安 2009、藤原 2009、安 2010a、安 2010b、安 2011、安 2012、松田 2013、安・宋 2013、安 2014、安 2015a、安 2015b)。

## 2. 目的

COVID-19 パンデミックが契機となり世界的なパラダイムシフトが起き、教育現場においてもオンライン授業など ICT を導入した急速な変革が進んでいる。それに伴い、来日前の交換留学生に対するオンライン授業が可能となった。しかし、日本への入国経験のない交換留学生が、来日前に現地で受講するオンライン授業を通じてどのような対日観を形成するかは前例がないため不明な点が多い。

日本語学習者の日本人イメージにみられる特徴とその形成要因についての検討では、日本語・日

本関連の授業から得る知識、日本人との対人コミュニケーション経験、対日情報源の多様性がイメージの形成要因であることが示されている（呉 2008）。現在、インターネットにより世界的なネットワークが構築され既に 20 数年が経過している。それに加え、近年の SNS の発展により、対日情報源も質量ともに多様化・重層化しているため、実体験と対日情報源のいずれが留学生の対日観に影響を与えるかについては検討の余地がある。先行研究（安 2008a、安 2009、藤原 2009、安 2010a、安 2010b、安 2011、安 2012、松田 2013、安・宋 2013、安 2014、安 2015a、安 2015b）におけるような対日観を示すのか、あるいは実体験を伴わないことが交換留学生の対日観にこれまでとは異なる影響を与えるかについての検討は残された課題である。

COVID-19 パンデミックにより来日が停止し、現地でのオンライン授業を余儀なくされた交換留学生の対日観を検討することは、パラダイムシフト以降の今後の留学生教育を考えていくうえで 1 つの課題である。特に、「オンライン授業の海外配信は実際の授業を海外の学生が体験できる（張ら 2020）」というメリットを生かしていくためにも、オンライン授業で可能なことと不可能なことを明らかにしていく必要がある。しかし、オンライン授業が来日前の留学生の対日観に与える影響についての調査は前例がない。そこで本研究では、質的分析方法である PAC（Personal Attitude Construction）分析とテキストマイニングを用い、入国経験のない交換留学生がオンライン授業受講後にどのような対日観を形成するか探索的に検討することを目的とした。

### 3. 方法

#### 3.1. PAC 分析の実施

茨城大学のオンライン交換留学生 4 名（対象 A から対象 D）を対象とした。対象の出身は、インドネシアが 3 名、中国が 1 名であった。対象の 4 名は、茨城大学日本語研修コースレベル 4（中級）の学生であったが、それ以前の来日経験はなく、かつ、COVID-19 感染拡大のため、予定通り来日することができず本国で授業を受けた者であった。待機期間中に交換留学先の茨城大学が配信する日本事情のオンライン授業（同時双方向）を受講した。

オンライン授業を受講した対象 A から対象 D に PAC（Personal Attitude Construction）分析を実施した。PAC 分析は多変量解析を取り入れ、少数事例に関する詳細で客観的な分析を行う手法である（内藤 1997）。連想刺激の操作的手続きにより、対象の内面へのアプローチや被験者自身の問題について気づきをもたらすことなども可能であることが示されている（内藤 1997）。通常 PAC 分析は、(1) 対面による連想イメージの記述、(2) 連想イメージの重要度に対する評価結果に基づくクラスター分析、(3) クラスター分析により得られたデンドログラムを被験者に提示しながらのインタビュー、から構成される。しかし、本研究の調査時期は、COVID-19 パンデミックのため対面での調査事体が困難な状況が続いていたのに加え、対象の交換留学生の来日自体が不可能な状況下であった。そのため、本研究では E メールでのテキストと添付ファイルによるやり取りを通じた PAC 分析を実施した。

本研究への協力に当たり、研究の目的、研究協力の任意性、匿名化によるプライバシーの保護、協力同意撤回の自由について、被験者に対し E メールによる文書で説明し同意を得た。対象が特定されることを回避するため、出身地域、性別、年齢等が推測されうる箇所は削除、あるいは伏字としている。

調査は第 1 部と第 2 部から構成した。第 1 部では、初めに、以下の刺激を与えイメージ項目を質問紙に記入するよう文書で教示した。イメージ項目記入は 10 個以上になるよう教示した。

【刺激文】あなたは「日本・日本人・日本文化」に対してどんなイメージを持っていますか？あなたが「日本・日本人・日本文化」を考える時に重要と思われる順番に下の[イメージ表]に10個以上記載してください。イメージは、単語（例：優しい、寒い）、または短い文（例：日本の冬は寒い）で書いてください。

連想イメージ記入後、対象が記入した連想イメージを重要と思われる順序に並べるよう文書で教示した。次に、各順位のイメージ項目の組み合わせが、直感的イメージでその意味内容においてどの程度近いのか7段階尺度で評定するよう文書で教示した。イメージ項目と7段階評定の結果を指定のメールアドレスに返送するよう教示した。第1部はここで完了した。ここまでの調査は、2022年2月6日から2月27日までの間に実施した。

第2部は、初めにEメールにて受け取った評定結果に対し、対象ごと個別にクラスター分析(Ward法; HALBAU for Windows Ver. 6.24 使用)を実施した。クラスター分析の結果得られたデンドログラムに対し、第1著者と第2著者の2者間においてクラスターの分割点について協議を行った。協議後、デンドログラムと分割点の案を各被験者にメールで送付した。被験者は、デンドログラムと我々からの分割点の案を受け取った。受け取った案に対し、検討を行うよう教示した。最終的な分割点は、各被験者が判断し最終的なクラスターの数を決定した。

Eメールテキストと添付ファイルのやり取りを通し、各被験者が決定したクラスターの解釈を求めた。解釈は、クラスター（教示文では「グループ」）ごとに以下のような教示文を示し、続いて自記スペースを設け、テキスト入力にて記述するよう求めた。

#### 【教示文】

質問1. 各グループのイメージについて聞きます。

質問1-1) グループAについて聞きます。グループAは『1) ●●』『2) ●●』が一つのグループになっていますが、これらはどのような内容のグループなのか、できるだけ詳しく書いてください。

クラスター解釈終了後、各イメージ項目に対し、プラスイメージ(+)、マイナスイメージ(-)、どちらとも言えない(0)のいずれかで評価をするよう教示した。また、各イメージについて、そのイメージを抱くようになったきっかけや媒体などについて記述するよう教示した。

全てのクラスターに対する解釈を記述したら、指定のメールアドレスに添付を送信するよう教示した。

第1部の調査と第2部の調査で得られた結果に対する解釈を第1著者と第2著者間で行った。

### 3.2. クラスター解釈の記述内容に対するテキストマイニングの実施

被験者がクラスターを解釈し、Eメールにて返送してきた記述内容に対し、テキストマイニングを行った。テキストマイニングは、定性的な特徴をもつテキストを定量的に分析する(小林2015)手法である。PAC分析においては、取得されたスクリプトや記述に多くのテキストデータが含まれる。しかし、PAC分析では、研究者によるテキストデータの解釈にとどまるため、テキストに含まれる特徴を網羅的に把握することには限界がある。その限界を補うため、本研究ではPAC



分析に加え、テキストマイニングによる解析も実施した。テキストマイニングには、KH Coder, Version 3. Beta. 01 e を使用した。解析にあたり、各被験者からの解釈の記述内容を、センテンス（文）ごとに分割した。テキストマイニングの精度を高めるため解析対象のセンテンスのクレンジングを行った。クレンジングは、綴りと文法の明らかな誤用（かつ、文意の解釈に齟齬が生じない項目）について正しく修正した。クレンジング終了後、クラスター解釈の記述内容の被験者間の共起関係について文単位で解析した。KH Coder, Version 3. Beta. 01 e による前処理等終了後、共起関係を描画した。描画する共起関係は上位 15 位とした。

## 4. 結果

4.1. から 4.4. に PAC 分析におけるクラスター分析の結果を、4.5. にテキストマイニングにおける共起関係の解析結果を示す。

クラスター分析の結果、各対象からデンドログラムが得られた。以下、対象 A から対象 D のデンドログラムを図 1 から図 4 に示す。デンドログラムの縦軸は連想イメージ順位、横軸は連想イメージ間の距離を示している。各連想項目イメージ（プラスイメージ、マイナスイメージ、どちらとも言えないのいずれかの評価）、各クラスターの解釈がデンドログラム内に示されている。

各クラスターについて E メールによる調査を行った記述結果を斜体字で示す。記述内で対象が特定されうる固有名詞などは削除または伏字とした。なお、記述結果の一部に文法的誤用が含まれるが、文意を損なわない限りそのまま記載した（以下同様）。

### 4.1. 対象 A の結果

対象の A のクラスター分析から得られたデンドログラムを図 1 に示す。対象 A は 12 個の連想イメージを 3 つのクラスターに分類した。クラスター 1 は連想項目順位 1、2 の 2 項目であった。クラスター 2 は 9、12、11、10、3、8 の 6 項目であった。クラスター 3 は 5、6、7、4 の 4 項目であった。

クラスター 1 は、1) 富士山 (+)、2) 新幹線 (+) の 2 項目であった。対象 A は、結果を検討しクラスター名を「日本の景色」とした。E メール調査の記述結果を斜体字で示す。

*第 1 グループは最初に浮かんだ日本のイメージです。私にとって富士山は綺麗で、いずれ日本に来て、この目で見たいと思います。また、富士山をイメージすると、新幹線のイメージもついてきたので、もし富士山を話するとき、私の頭に浮かんだイメージは富士山とその前にあった新幹線です。*

クラスター 2 は、9) 金閣寺 (+)、12) 最初は真面目と思いましたが、何回共同研究をした後、そんなに真面目な人たちでした (0)、11) 引きこもり (-)、10) ニート (-)、3) アニメ (+)、8) 自動販売機 (+) の 6 項目であった。対象 A は、結果を検討しクラスター名を「日本人の予想外のところ」とした。E メール調査の記述結果を斜体字で示す。

*金閣寺と自動販売機は違うものです。金閣寺と自動販売機は人の造りです。時代が違って、今、同じ時間や時代に見るのはたまに不自然だと思います。しかし、もう一度考えると、これは日本人の努力もあるかもしれません。技術を開発しても昔から残ったものを守るという努力や気持ちを感じました。そして、これを考えると、「あ、日本人って真面目で頭がいいだな」と思*

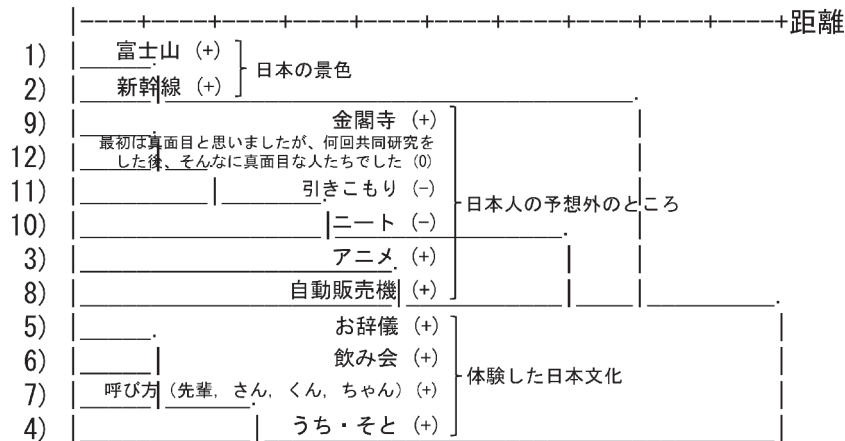


図 1. 対象 A のデンドログラム

いました。また、インドネシアでは日本人は真面目でちゃんと約束通りに時間を守るという印象があるから、日本人はすごく真面目な人たちだと思いしました。しかし、大学3年生のとき、ある大学と共同研究をやっていて、参加者は6グループに分担されました。そこで、私が知らない日本人のところを体験しました。ほとんどのチームは締め切りのギリギリまでに提出しました。一週間前提出した私は驚くて、私はすごく真面目な人だと思われました。実は、私はそんなに真面目な人です。ただ私のグループは日本人ですので、できるだけ提出時間はギリギリまでにはならないようにと思っただけです。そして、このことを考えるとき、私は思い出した。引きこもりとニートになった人たちです。いくつかの記事や授業にも習ったとき、引きこもりやニートになったものは現実から逃げたもので、ほとんどアニメを逃げ場にする人たちです。

クラスター3は、5) お辞儀 (+)、6) 飲み会 (+)、7) 呼び方 (先輩、さん、くん、ちゃん) (+)、4) うち・そと (+) の4項目であった。対象Aは、結果を検討しクラスター名を「体験した日本文化」とした。Eメール調査の記述結果を斜体字で示す。

このグループは私の頭に浮かんだ日本にあった文化です。このグループは初めて体験したのは大学1年でした。そのときは論文発表会的なイベントがあって、それは一日中のイベントでした。今まで本しか読まないことは今体験しました。挨拶や感謝をいうときお辞儀をして、イベントが終わったあと、飲み会があって、そこで参加者は呼び方を使って話かけました。また、飲み会のときに、参加者は相手によってそれぞれ敬語や普通語で話しまして、「あ、これは「うち・そと」というものだな、」と思いました。

#### 4.2. 対象 B の結果

対象のBのクラスター分析から得られたデンドログラムを図2に示す。対象Bは20個の連想イメージを4つのクラスターに分類した。

クラスター1は、9) アルバイトしている高校生や大学生が多い (0)、12) よくお辞儀をする (+)、8) 部活をととても重視している (0) の3項目であった。対象Bは、結果を検討しクラスター名を「●人との違い」とした。Eメール調査の記述結果を斜体字で示す。

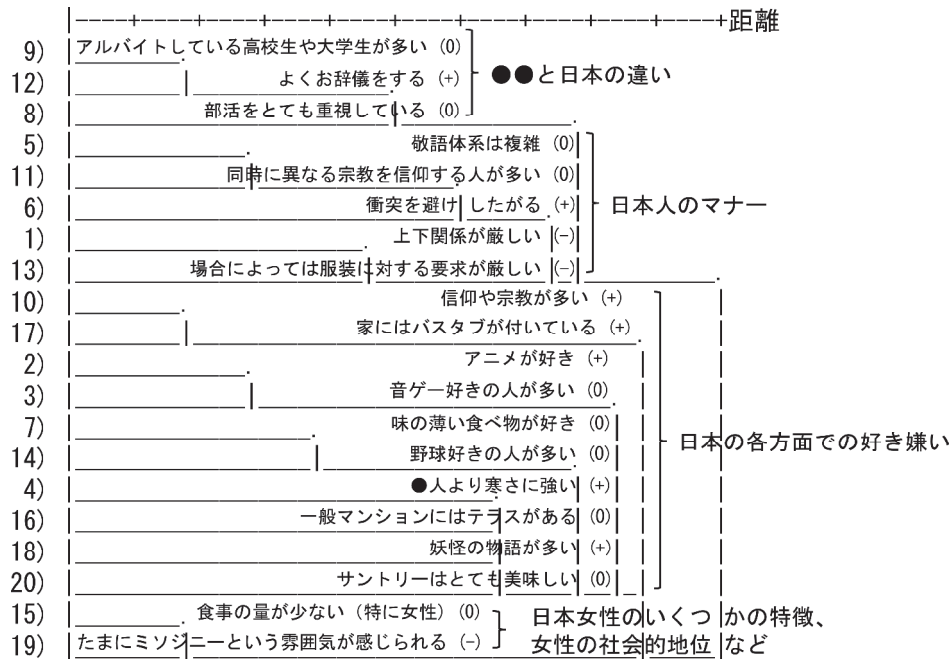


図 2. 対象 B のデンドログラム

●●に比べて、高校の大学生がアルバイトをする例がよく見られる。感謝とお詫びをする時はよくお辞儀をする。部活を大切に、部活に参加するために課を切ったニュースを見たことがある。

クラスター 2 は、5) 敬語体系は複雑 (0)、11) 同時に異なる宗教を信仰する人が多い (0)、6) 衝突を避けしたが (0)、1) 上下関係が厳しい (-)、13) 場合によっては服装に対する要求が厳しい (-) の 5 項目であった。対象 B は、結果を検討しクラスター名を「日本人のマナー」とした。E メール調査の記述結果を斜体字で示す。

例えばほとんどの面接では必ず黒いスーツと黒い髪などが必要だ。自分より地位の高い人と地位の低い人には違う言葉がある。多くの人が神社にお参りしたり、お寺に行ったりする。

クラスター 3 は、10) 信仰や宗教が多い (+)、17) 家にはバスタブが付いている (+)、2) アニメが好き (+)、3) 音ゲー好きの人が多い (0)、7) 味の薄い食べ物が好き (0)、14) 野球好きの人が多い (0)、4) ●●人より寒さに強い (+)、16) 一般マンションにはテラスがある (0)、18) 妖怪の物語が多い (+)、20) サントリーはとても美味しい (0) の 10 項目であった。対象 B は、結果を検討しクラスター名を「日本の各方面での好き嫌い」とした。E メール調査の記述結果を斜体字で示す。

日本人の各方面での好き嫌い。冬も夏のようにスカートなどしか着ない女性が多い。

クラスター 4 は、15) 食事の量が少ない (特に女性) (0)、19) たまにミソジニーという雰囲気が感じられる (-) の 2 項目であった。対象 B は、結果を検討しクラスター名を「日本女性のいくつかの特徴、女性の社会的地位など」とした。E メール調査の記述結果を斜体字で示す。

日本女性のいくつかの特徴、女性の社会的地位など。

#### 4.3. 対象 C の結果

対象の C のクラスター分析から得られたデンドログラムを図 3 に示す。対象 C は 20 個の連想イメージを 4 つのクラスターに分類した。

クラスター 1 は、1) 桜 (+)、2) 鳥居 (+)、3) 紅葉 (+)、4) 寺と神社 (+)、6) アニメとアイドル (0)、10) 花見 (+)、15) 漫画 (0) の 7 項目であった。対象 C は、結果を検討しクラスター名を「日本の第一イメージ」とした。E メール調査の記述結果を斜体字で示す。

このグループ 1 は日本なら初めて頭に浮かんだことはこのグループです。桜は日本の国花なので日本に関わっている CM や品質やなど桜がいつもあります。そしてアニメのパートの背景が桜がよく表しています。アイドルは桜の衣装のパターン時々着ていますからアイドルの言葉を聞くときに桜も浮かんでいます。日本なら桜だけではなく、紅葉、寺と神社、花見という習慣も日本のことを紹介するときにもいつもあります。漫画は外国で有名な日本の作品だと思います。●●で漫画を読む人を見ればいつも「あの人は日本のこと大好きだね」とよく聞いています。

クラスター 2 は、5) 富士山 (+)、7) 浴衣と着物 (+)、12) おじぎ (+)、16) よさこい祭り (+)、13) 寿司とラーメン (+)、17) 伝統的 (+) の 6 項目であった。対象 C は、結果を検討しクラスター名を「日本の文化」とした。E メール調査の記述結果を斜体字で示す。

グループ 2 は文化に関わっている日本のことだと思います。このグループは日本の国を聞いたときに第二の印象だと思います。富士山は聞いたら古くてえんかという日本の歌のジャンルが

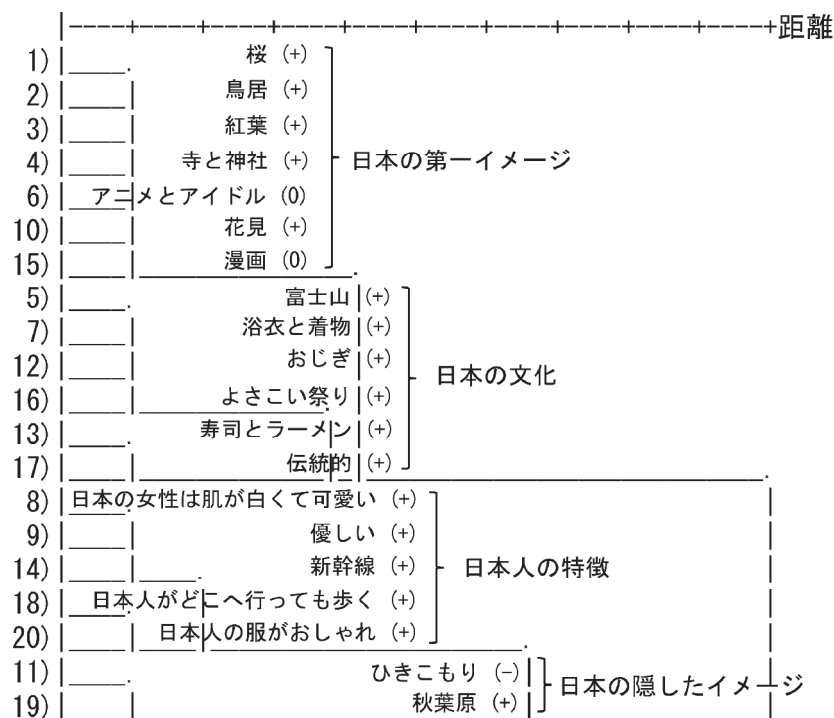


図 3. 対象 C のデンドログラム



よく浮かべます。そして浴衣と着物は日本の祭り、式、昔話のことをまず浮かんだイメージでおじぎ、よさこい祭り、伝統的を招いたイメージも頭の中に誕生します。寿司とラーメンの食べ物も店がユーチューブで見るときにだいたい伝統的でシンプルな店をよく見えています。

クラスター3は、8) 日本の女性は肌が白くて可愛い (+)、9) 優しい (+)、14) 新幹線 (+)、18) 日本人がどこへ行っても歩く (+)、20) 日本人の服がおしゃれ (+) の5項目であった。対象Cは、結果を検討しクラスター名を「日本人の特徴」とした。Eメール調査の記述結果を斜体字で示す。

グループ3は日本人の特徴だと思います。日本人はだいたい肌が白いです。特に日本の女性がだいたい肌がとても白くて、白い肌を持っていた女性は可愛くなくとも思います。可愛いは日本の女性のタイプだけではなくて外国でも可愛い女性が大好きらしいです。日本人の特徴は白い肌だけではなくて優しいも日本人のイメージです。友達や知り合いに会うときに挨拶をして笑顔をよく見せています。他のは日本人はどこへ行っても歩きます。遠い場所へ行けば新幹線で行きます。

クラスター4は、11) ひきこもり (-)、19) 秋葉原 (+) の2項目であった。対象Cは、結果を検討しクラスター名を「日本の隠したイメージ」とした。Eメール調査の記述結果を斜体字で示す。

このグループはあまり考えない日本のイメージだと思います。ひきこもりと秋葉原のことが少し深い日本のことが調べる人がよく知っているイメージだと思います。ひきこもりは暗い側の日本のことで隠したイメージです。秋葉原は東京にある小さい町で東京より秋葉原はあまり知らない人がいると思います。それに秋葉原にはひきこもりの人はいると思います。

#### 4.4. 対象Dの結果

対象のDのクラスター分析から得られたデンドログラムを図4に示す。対象Dは10個の連想イメージを3つのクラスターに分類した。

クラスター1は、1) 美しい国 (+)、3) きれい (+) の2項目であった。対象Dは、結果を検討しクラスター名を「守る」とした。Eメール調査の記述結果を斜体字で示す。

日本は色々な所できれいに守ることができて、礼儀とつながることがあると思います。礼儀はきちんと礼を表すけして悪いことを見せない、だから「美しい国」と「礼儀」はつながるがあると思います。

クラスター2は、2) 礼儀 (0)、6) 他人を迷惑かけない (+)、9) 安全 (+)、5) 平和 (+)、7) 優しい (0) の5項目であった。対象Dは、結果を検討しクラスター名を「先進国」とした。Eメール調査の記述結果を斜体字で示す。

グループ2は日本は先進国だからです。先進国の国で「きれい」「交通効率」「平和」与えることができる。日本では町はきれい、電車とかバスとか色々便利あって交通効率がいい、そして平和と思います。「他人を迷惑かけない」は周りは便利で効率すぎて他人を迷惑必要はない、

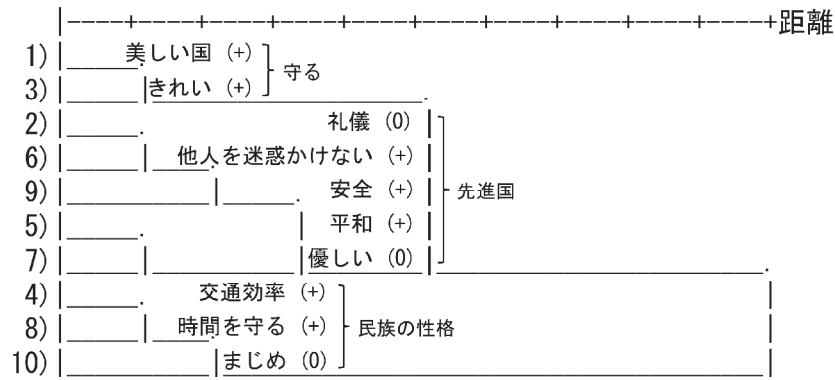


図 4. 対象 D のデンドログラム

そして先進国では個人主義的である傾向があってこれももう一つの理由だと思います。「優しい」は余裕があるから優しいを見せるのはできる。

クラスター 3 は、4) 交通効率 (+)、8) 時間を守る (+)、10) まじめ (0) の 3 項目であった。対象 D は、結果を検討しクラスター名を「民族の性格」とした。E メール調査の記述結果を斜体字で示す。

このグループは民族の性格だと思います。時間を守るからまじめに見える。まじめだから安全を守る。まじめの人は他人を迷惑かける余裕がないから安全になります。

#### 4.5. テキストマイニングの結果

図 5 は、テキストマイニングにおける共起ネットワークの描画結果を示している。共起関係の強

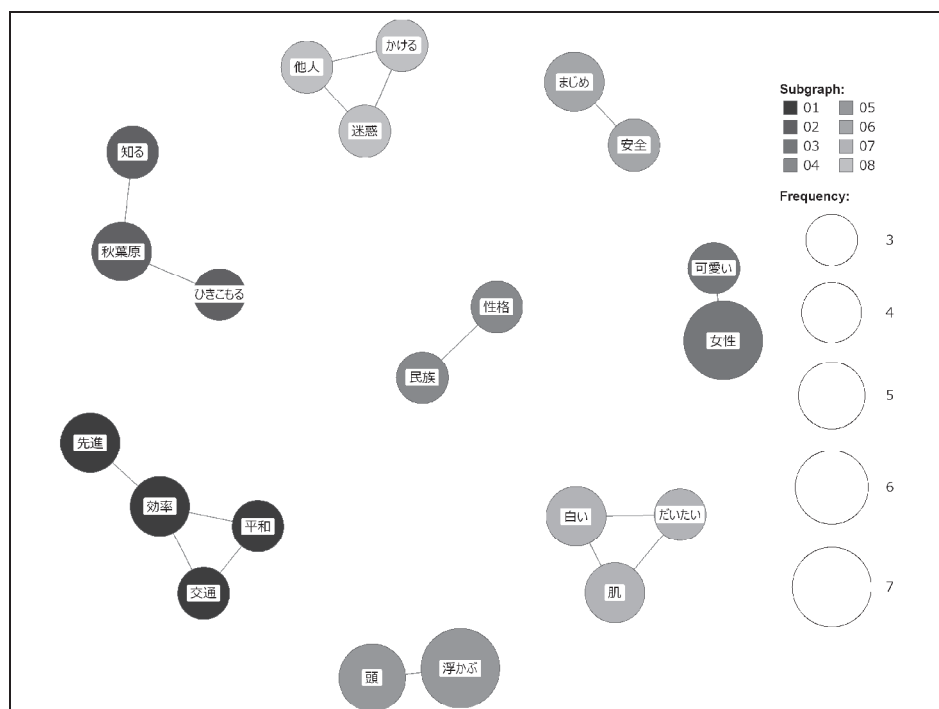


図 5. 共起ネットワーク

いグループとして、(1)「交通」「平和」「効率」「先進」、(2)「秋葉原」「知る」「ひきこもる」、(3)「女性」「可愛い」、(4)「民族」「性格」、(5)「浮かぶ」「頭」、(6)「まじめ」「安全」、(7)「肌」「白い」「だいたい」、(8)「他人」「迷惑」「かける」の8つが形成された。図中の円の大きさは、それぞれの語の出現頻度を表している。円と円を結ぶ線は、結び合わさったそれぞれの語が表記関係にあることを表している。

## 5. 考察

表1は対象Aから対象Dのクラスターの一覧である。日本入国後のインドネシア出身留学生を対象とした日本人観・対日観の検討では、仕事の完璧さと正確さ、いろいろな国の人との国際交流、高齢者の運転、ギャル語、トイレの機能など、来日後の実体験を通し新たな対日イメージが生まれたことが示されている（安 2016）。この傾向は、留学生の出身に関わらず同様であることが示されている（安 2008a、安 2009、藤原 2009、安 2010a、安 2010b、安 2011、安 2012、松田 2013、安・宋 2013、安 2014、安 2015a、安 2015b）。一方、本研究の結果、日本の景色（対象A）、日本人のマナー（対象B）、日本の第一イメージ（対象C）、日本の文化（対象C）、先進国（対象D）、民族の性格（対象D）のように、対日情報源がクラスター形成の要因となっていると考えられる。

対象A：私にとって富士山は綺麗で、……。また、富士山をイメージすると、新幹線のイメージもついてきたので、……。私の頭に浮かんできたイメージは富士山とその前にあった新幹線……。

対象C：桜は日本の国花なので日本に関わっているCMや品質やなど桜がいつもあります。そしてアニメのパートの背景が桜がよく表しています。寿司とラーメンの食べ物も店がユーチューブで見るときにだいたい伝統的でシンプルな店をよく見えています。

対日イメージは、日本語・日本関連の授業から得る知識、日本人との対人コミュニケーション経験、対日情報源の多様性がイメージ形成要因となりうることが示されている（呉 2008）が、本研究の対象においてはメディア等の対日情報源が対日観形成の主な要因となっていることが窺われる。各連想イメージに対しそれを抱くようになったきっかけ・媒体についての問いに対する回答を見ると、対象Aの(6)「ニート」、(12)「うち・そと」に対する回答として「授業で学んだこと」、対象のBの(1)「上下関係」に対する回答として「授業中感じる」、(10)「信仰や宗教が多い」に対する回答として「授業」などが認められた。日本語・日本関連の授業から得る知識（呉 2008）も、本研究の対象における対日観形成の要因となっていると考えられる。

表1. 対象Aから対象Dのクラスターの一覧

対象	クラスター1	クラスター2	クラスター3	クラスター4
A	日本の景色	日本人の予想外のところ	体験した日本文化	—
B	●●と日本の違い	日本人のマナー	日本の各方面で好き嫌い	日本女性のいくつかの特徴、女性の社会的地位など
C	日本の第一イメージ	日本の文化	日本人の特徴	日本の隠したイメージ
D	守る	先進国	民族の性格	—

日本人との対人コミュニケーション経験 (呉 2008) が要因となったと推察されるクラスターとクラスター解釈の記述も認められた。

対象 A : ある大学と共同研究をやっていて、……。そこで、私が知らない日本人のところを体験しました。……。今まで本しか読まないことは今体験しました。挨拶や感謝をいうときお辞儀をして、イベントが終わったあと、飲み会があって、そこで参加者は呼び方を使って話かけました。

しかし、以下の対象 A の記述にあるように、現地滞在の日本人との交流を通した限定的な経験に基づくものであり、実際に日本で生活を送りながら学習を進め、その経験を通し形成された対日観 (安 2008a、安 2009、藤原 2009、安 2010a、安 2010b、安 2011、安 2012、松田 2013、安・宋 2013、安 2014、安 2015a、安 2015b) とは異なると考えられる。テキストマイニングの結果も、(1)「交通」「平和」「効率」「先進」、(2)「秋葉原」「知る」「ひきこもる」、(3)「女性」「可愛い」、(4)「民族」「性格」、(5)「浮かぶ」「頭」、(6)「まじめ」「安全」、(7)「肌」「白い」「だいたい」、(8)「他人」「迷惑」「かける」のように、日本語・日本関連の授業から得る知識、対日情報源 (呉 2008) の影響が窺われ、クラスター分析と同様の傾向を示していると考えられる。研究者の解釈主体の PAC 分析に加え、テキストを定量的に検討したテキストマイニングにおいても同様の傾向が示された。

オンライン授業の海外配信のメリットとして、実際の授業を海外の学生が体験できる (張ら 2020) ことが示されている。本研究では、入国経験のない交換留学生在がオンライン授業受講後にどのような対日観を形成するか探索的に検討した。結果、現状のオンライン授業だけでは、現地で知りうる情報以外から留学生的対日観に影響を与える要因は認められなかった。しかし、今後オンライン授業の方法や形態を工夫することにより、来日前の留学生にも新たなインパクトを与えることができるかもしれない。単にインターネットで学生同士をつないだだけでは、議論が深まるまでには至らない (田口ら 2014) との指摘にあるように、オンラインに代表される ICT をどのように有効に活用するかが今後の課題となるであろう。対日観の形成に関しては、来日後の実体験が大きな要因となることが示されている (安 2008a、安 2009、藤原 2009、安 2010a、安 2010b、安 2011、安 2012、松田 2013、安・宋 2013、安 2014、安 2015a、安 2015b)。バーチャルではあるが、実体験を模擬的に作り出すことにより、新たな変化が可能になるかもしれない。例えば、テレビ会議アプリとして普及している Zoom のブレイクアウトルーム機能を用い、日本にいる日本人学生と現地の留学生によるバズグループによるディスカッションなどが実行可能な方策であろう。また、近年普及が進むメタバース (2022) を活用し、仮想空間上での日本社会の体験など、入国前の留学生にとって新たな対日観を形成する機会となるかもしれない。

## 6. まとめ

本研究では、来日前の交換留学生による対日観を探索的に検討することを目的とした。PAC 分析およびテキストマイニングによる共起ネットワーク検討の結果、メディアや授業などからの情報、現地での日本人との限られた交流が対日観を形成する主な要因であることが示された。来日後、一定期間日本で学習・研究と日常生活を送った留学生的対日観 (安 2008a、安 2009、藤原 2009、安 2010a、安 2010b、安 2011、安 2012、松田 2013、安・宋 2013、安 2014、安 2015a、安 2015b) とは対照的であった。日本語学習者の日本人イメージにみられる特徴とその形成要因についての検討



では、日本語・日本関連の授業から得る知識、日本人との対人コミュニケーション経験、対日情報源の多様性がイメージ形成要因であることが示されている（呉 2008）。来日前の交換留学生にとっては、対日情報源が対日観形成の主な要因となりうることが示唆された。この点を踏まえた ICT の有効活用策として、来日前のオンラインによる日本人学生との交流セッションやメタバースを活用したバーチャル日本社会体験などが有効であると考えられた。

本研究は、日本未入国の交換留学生の対日観について質的に検討した。日本における体験が留学生の対日観形成にどの程度影響を与えるか、量的な検討も行う必要がある。また、COVID-19 パンデミックを契機としたオンライン授業に代表される ICT を活用した入国前のバーチャルな日本体験がどの程度留学生の日本観に影響を与えるか検証していく必要がある。

## 謝辞

本研究の一部は科学研究費補助金（17K02838、21H0053）の助成を受けて行われた。

## 引用文献

- 安龍洙. (2008a) 「韓国人留学生の対日観の変容に関する一考察—個人別態度構造分析法 (PAC 分析法) を用いて—」 留学生交流・指導研究 **10**, 31-48.
- 安龍洙. (2008b) 「韓国人の対日観に関する一考察—個人別態度構造分析法 (PAC) を用いて—」 ユーラシア研究 **5** (3), 107-125.
- 安龍洙. (2010a) 「外国人の対日観に関する研究—日本滞在歴の長い韓国人の場合—」 ユーラシア研究 **7** (4), 373-392.
- 安龍洙. (2010b) 「外国人の対日観に関する研究—中国人非正規留学生の場合—」 茨城大学留学生センター紀要 **8**, 1-17.
- 安龍洙. (2011) 「外国人の対日観に関する研究—ベトナム人留学生の場合—」 茨城大学留学生センター紀要 **9**, 1-18.
- 安龍洙. (2012) 「外国人の対日観に関する研究—中国の少数民族出身者の場合—」 茨城大学留学生センター紀要 **10**, 1-14.
- 安龍洙・宋有宰. (2013) 「外国人の対日観の変化に関する研究—日本滞在歴の長い韓国人留学生の場合—」 茨城大学留学生センター紀要 **11**, 81-96.
- 安龍洙. (2014) 「韓国人短期留学生の日本留学観の変化に関する一考察」 茨城大学留学生センター紀要 **12**, 75-88.
- 安龍洙・アントン・アンドレイフ. (2014) 「ブルガリア人の日本留学前後の対日観の変化に関する一考察」 茨城大学留学生センター紀要 **12**, 1-14.
- 安龍洙. (2015a) 「在日永住者の対日観に関する一考察—韓国人ニューカマーの場合—」 茨城大学留学生センター紀要 **13**, 61-73.
- 安龍洙. (2015b) 「日本留学経験者の韓国帰国後の対日観の変化に関する一考察」 茨城大学留学生センター紀要 **13**, 1-14.
- 安龍洙. (2016) 「インドネシア人交換留学生の日本留学に関する一考察」 茨城大学留学生センター紀要 **14**, 1-18.
- 安龍洙. (2018) 「東欧出身短期留学生の日本留学観に関する一考察」 茨城大学全学教育機構論集グローバル教育研究 **1**, 1-11.
- 岩城奈巳・巽洋子. (2021) 「COVID-19 による学生の留学に対する意識変化—大学生への調査を通して—」 名古屋高等教育研究 **21**, 187-206.
- 呉正培. (2008) 「日本語学習者の日本人イメージにみられる特徴とその形成要因—韓国の大学における学習者と非学習者の比較—」 世界の日本語教育 **18**, 35-55.
- 大江恵子. (2011) 「韓国人日本語学習者の対日イメージ」 東京女子大学言語文化研究 **20**, 16-29.
- 小林しのぶ. (2015) 「テキストマイニングの技術と動向」 計算機統計学 **28** (1), 31-40.
- 進藤優子・人見英里・岩野雅子. (2021) 「ブレンド型 e ラーニング大学院教育の可能性—新型コロナウイルス感染症防止に伴う遠隔授業の事後調査分析から—」 山口県立大学学術情報 **14**, 57-75.
- 田口真奈・村上正行・神藤貴昭・溝上慎. (2014) 「一大学間合同ゼミにおけるインターネットの役割」 日本教育工学雑誌 **24**, 59-64.
- 張希西・李明・エンクトゥル アリウナ・石川真由美・小溝裕一. (2020) 「コロナ新時代における国際交流活動の展開：大阪大学におけるオンライン留学生リクルートの実践と課題」 大阪大学高等教育研究 **9**, 41-49.
- 内藤哲雄. (1997) 「PAC 分析の適用範囲と実施法」 人文科学論集 **31**, 51-88.
- 深川美帆. (2020) 「コロナ禍における総合日本語プログラムの遠隔教育—国際交流と言語教育を止めないための取

- り組み」金沢大学国際機構紀要 **3**, 73-89.
- 藤原智栄美. (2009) 「台湾人日本語話者の対日観に関する一考察－個人別態度構造分析法 (PAC 分析) による事例研究－」日本学と台湾学 **8**, 1-23.
- 松田勇一. (2013) 「外国人の対日観の変容に関する研究－ベトナム人留学生の場合－」茨城大学留学生センター紀要 **11**, 97-111.
- 宮本真有. (2022) 「いつもの教室で「留学」体験！メタバースを活用した言語教育の試み－「バーチャル・キャンパスツアー」を通して－」名古屋外国語大学論集 **11**, 177-193.
- 村田晶子. (2021) 「孤立する留学生のオンライン学習支援とソーシャルサポート－コロナ禍でのボランティア学生の取り組み－」多文化社会と言語教育 **1**, 14-29.
- Daniel, Sir J. (2020) Education and the COVID-19 pandemic. PROSPECTS **49**, 91-96.
- Ciotti, M., Ciccozzi, M., Terrinoni, A., Jiang, W. C., Wang C. B., and Bernardini S. (2020) The COVID-19 pandemic. CRITICAL REVIEWS IN CLINICAL LABORATORY SCIENCES **57** (6), 365-388.